人文研アカデミー2014 知のラビリンスに遊べ

レクチャー上映会

参加無料・予約不要

第一次世界大戦と映画特集

―映像に刻まれた現代の起点―

THE FIRST WORLD WAR INSCRIBED IN FILMS

2014年7月18日(金)〜21日(月・祝)

会場 京都文化博物館3階フィルムシアター

J'accuse, Abel Gance 1919

主催 京都大学人文科学研究所
共催 京都文化博物館
協力 東京国立近代美術館フィルムセンター、神戸映画資料館、小松弘(早稲田大学)

kobe 神戸映画資料館 KOBE PLANET FILM ARCHIVE

NFC

THE MUSEUM OF KYOTO

JINBUNKEN ACADEMY

Institute for Research in Humanities KYOTO UNIVERSITY

人文研アカデミー2014　レクチャー上映会

第一次世界大戦と映画特集 —映像に刻まれた現代の起点—

JINBUNKEN ACADEMY

今から100年前の1914年7月、第一次世界大戦が勃発した。日本を含め、文字通りグローバルな規模で大きな衝撃を及ぼした第一次世界大戦は、「現代世界」の起点になる出来事と評される。開戦から一世紀を迎える2014年、現代に生きる私たちは大戦の歴史的意義をどのように受け止めるべきか、当時の映画を通して改めて考える機会を持ちたい。

上映スケジュール

・開場は各回上映開始時間の30分前（各回入れ替え制）　・上映作品や伴奏者は当日変更になる可能性がございます

7月18日（金）13:30–

『世界の心』
Hearts of the World

（1918年アメリカ／監督：D・W・グリフィス／出演：リリアン・ギッシュ／染色・モノクロ／サウンド版／121分／16mm／東京国立近代美術館フィルムセンター蔵）

日本語字幕なし、英語字幕あり

「イントレランス」（1916）の興行的失敗で巨額の負債を抱えていたD・W・グリフィスに、イギリスの首相ロイド・ジョージが製作を依頼。アメリカの参戦を促すプロパガンダとして作られた。アメリカ人男女の恋愛が大戦勃発により運命的に引き裂かれる、というグリフィスお得意のメロドラマ的展開である。リリアン・ギッシュが戦地に赴いた恋人を探してあてもなく放浪するシーンは、「東への道」（1920）で彼女が流氷で流されてゆくシーンよりも背筋が凍るものがある。

18:30–

『八月の砲声』
The Guns of August

（1964年アメリカ／監督：ネイサン・クロル／ドキュメンタリー／モノクロ／トーキー／100分／16mm／プラネット映画資料図書館蔵）

日本語字幕なし

バーバラ・W・タックマンの同名小説に基づくドキュメンタリー。原作の精密な調査と克明な描写を再現すべく、当時のニュース記録映像がふんだんに使用された、初の本格的な「視覚化された第一次世界大戦の歴史」である。記録と報道の歴史を考えるにあたっても重要な作品である。第一次大戦50周年を記念して本作が製作されてからさらに半世紀が経った今、この映像の遺産は我々の目にどのように映るだろうか。

7月19日（土）13:30–

『暁の偵察』
The Dawn Patrol（改題Flight Commander）

（1930年アメリカ／監督：ハワード・ホークス／出演：リチャード・バーセルメス、ウィリアム・ジャニー／モノクロ／トーキー／108分／16mm／個人蔵）

日本語字幕なし

西部戦線で戦うイギリス空軍の兵士たちの出口が見えない状況が描かれる航空映画の傑作。ハワード・ヒューズの「地獄の天使」（1930）と同時期に、遥かに少ない予算で作られたこの作品の出来栄えは、ヒューズにハワード・ホークスの監督としての手腕を知らしめた。中世の騎士道を思わせるような空中戦は様式的とすら言える美しさを持ち、また女優が一人として出ないこの映画はホークス作品におけるホモ・ソーシャルな特徴を極めてはっきりと示してもいる。

17:00–

『鉄条網』
Barbed Wire

（1927年アメリカ／監督：ローランド・V・リー、マウリツ・スティルレル／出演：ポーラ・ネグリ／モノクロ／サイレント／80分／16mm／個人蔵）

日本語字幕なし、英語字幕あり　ピアノ伴奏

ノルマンディー地方を舞台とし、開戦で地所をドイツ兵捕虜収容所として摂取された農家の娘が、ドイツ人捕虜と親しくなったために展開するドラマ。「帝國ホテル」（1927）に引き続き、ポーラ・ネグリ主演、マウリツ・スティルレル監督作品として企画され撮影が開始されるが、監督の病気によりローランド・V・リーが引き継いだ。ドイツ兵とフランスの娘の愛という政治的敵対を超えた男女の結びつきは、この時期の大戦映画の一つの主要な傾向である。

7月20日（日）13:30–

『ヴェルダン—歴史の幻想—』
Verdun, Visions d'Histoire

（1928年フランス／監督：レオン・ポアリエ／出演：ジャンヌ=マリー・ローラン、ピエール・ナイ／モノクロ／サイレント／116分／35mm／東京国立近代美術館フィルムセンター蔵）

日本語字幕あり　ピアノ伴奏

第一次大戦中の、ドイツ国境に近いフランスの都市ヴェルダンにおける激しい攻防戦を描いた壮大なドキュメンタリー。大戦終結10周年を記念する本作を、監督は仏軍のヴェルダン死守に払われた多数の犠牲に捧げて作ったという。記録映画であると同時に、フランス兵、ドイツ兵、母親、息子といったさまざまな立場の人間から語られる一種の「戦争詩」とも呼べる構成となっている。演劇人として有名なA・アルトーも出演。

［上映後レクチャー］
佐藤洋「遠い人の声にふりむく　日本と映画と第一次世界大戦」

17:00–

『つばさ』
Wings

（1927年アメリカ／監督：ウィリアム・A・ウェルマン／出演：クララ・ボウ、チャールズ・ロジャーズ／モノクロ／サイレント／138分／16mm／プラネット映画資料図書館蔵）

日本語字幕なし、英語字幕あり　ピアノ伴奏

第一回アカデミー賞にて最優秀作品賞を受賞した無声映画。1920年代のハリウッドで流行した航空機ものの代表作である。戦争の悲惨さを描くというよりも、若い男女のロマンスと航空機の戦闘アクションに重きが置かれた娯楽大作である。迫力満点の空中戦スペクタクルに加えて、当時モダン・ガールとして一躍人気を馳せていたクララ・ボウのコミカルな演技も見所である。

7月21日（月・祝）13:30–

『帰郷』
Heimkehr

（1928年ドイツ／監督：ヨーエ・マイ／出演：ラーシュ・ハンソン、ディータ・パーロ／モノクロ／サイレント／80分／16mm／個人蔵）

日本語字幕なし、英語字幕あり　ピアノ伴奏

ロシアから戦友に先んじてドイツに戻った兵士が戦友の妻に愛情を抱く。ベテラン監督ヨーエ・マイの作品歴において「アスファルト」（1929）と共に彼の無声映画末期を代表する作品である。舞台劇を原作としたこの作品では、部分的に室内劇映画の様式を用い、また新即物主義的とも言えるストック・フーテージの使用等、「アスファルト」と同じくワイマール期ドイツ映画の特徴的な様式が意識的にとり上げられている。

［上映後レクチャー］
小川佐和子「無声映画に刻まれた大戦の経験」

17:00–

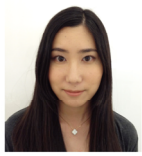
『戦争と平和』
J'accuse

（1919年フランス／監督：アベル・ガンス／出演：ロミュアル・ジューベ、セヴラン・マルス／染色・モノクロ／サイレント／166分／DVD上映／映像提供Lobster Films［パリ］）

日本語字幕なし、英語字幕あり

反戦映画の金字塔である。一人の女性をめぐる二人の男性の恋愛関係と友情を軸に、平和なフランスの農村が戦火によって蹂躙されていく。タイトルはドレフュス事件の不当を訴えたゾラの有名な公開状「我弾劾す（J'accuse）」に由来し、各場面でこの言葉が散りばめられる。監督は、自らの参戦経験をふまえ、特殊効果による歪んだ映像を用いて主人公の狂気の世界や一面の十字架から立ち上がる死者たちの亡霊の幻覚を表現する等、戦争への呪いを強烈かつ詩的に描き出した。

講師



小川佐和子（おがわ・さわこ、映画史研究）
1985年生。早稲田大学博士課程修了。京都大学人文科学研究所助教。共著に、『日本映画は生きている第2巻 映画史を読み直す』（岩波書店、2010年）、論文に「エヴゲーニイ・バウエルのスタイルの変遷」（『演劇映像』、2000年）など。

佐藤洋（さとう・よう、映画史研究）
1981年生。一橋大学社会学部、早稲田大学博士課程修了。2008年から、文化庁が作成するナショナル・フィルモグラフィー、日本映画情報システムの構築に、畑暉男・渡辺泰と共に従事。編著に、牧野守著・佐藤洋編『映画学の道しるべ』（文生書院、2011年）、佐藤忠男編『シリーズ日本のドキュメンタリー5巻資料編』（岩波書店、2010年）など。

ピアニスト

神﨑えり（こうざき・えり）
国立音楽大学及びフランス・パリ国立高等音楽院卒業。作曲、作曲理論、即興演奏、室内楽の学位を取得。近年は即興演奏による映画伴奏に力を入れており、国内外での公演多数。

京都文化博物館
京都府京都市中京区高倉通三条上る東片町623-1
075-222-0888　http://www.bunpaku.or.jp/

お問い合わせ
京都大学人文科学研究所 総務掛
075-753- 6902　http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/